

第3学年 国語科（書写）学習指導案

1 単 元 ひらがなの筆使い

2 単元について

本学級には、文字を書くことが好きな児童が多く、俳句や手紙、七夕の短冊等の文字を丁寧に書くことができる。また、書写学習に関しての興味・関心も高く、書写学習を振り返ることができるコーナーでは、友達と前時の文字を見ながら「次はどんな文字を書くのかな」と話したり、新出漢字を学習した際には、「筆で書いたら、しんにようは難しいだろうな」とつぶやいたりする児童もいる。一方で、筆圧が弱く、書く時の姿勢が崩れ、字形が整わない児童もいる。繰り返し声をかけることで、少しずつ文字を丁寧に意識して書くようになってきてはいるが、意識を持続させて書くまでには至っていない。

4月から児童は、毛筆用具の扱い方から始め、基本の点画の「横画」、「縦画」、「はらい」、「折れ」、「はね」について学習してきた。児童が書写の知識や技能を無理なく習得しながら、毛筆学習に親しめるようにスモールステップで進めてきた。その成果もあり、授業が始まると、一画一画じっくりと文字に向き合っている姿が多く見られる。また「高める」の場面での振り返りや授業後の振り返りカードから、自分の試し書きとまとめ書きとの変容に気づき、達成感が得られていることが見受けられる。しかし、思うように文字がうまく書けなかったと感じている児童もおり、「確かめる」の相互評価の場面での高めるための助言が十分にできていない点で課題が残る。

本単元は、『つり』を教材文字として、平仮名の「曲がり」と「はらい」の筆使い、平仮名特有の筆使いである字形の丸みや線と線のつながりについて学習する。漢字とは違う、曲線的で柔らかい筆使いを理解し、硬筆学習においても積み重ねてきた字形を意識しながら書かせたい。本時では、『つ』と『り』のそれぞれの始筆と「はらい」の筆使いについて理解し、穂先の動きを意識して筆を運ぶことをめあてとする。そのめあてを達成するために、効果的な練習ができる部分練習用紙や分解文字などを用意する。一人一人が自分のめあてを明確にもち、意識しながら書き進めることで、平仮名特有の筆使いの感覚を身に付けさせたい。そして、「高める」「確かめる」の場面では対話的な活動を取り入れ、「それぞれが得た学びを共有し合う場」と「認め励まし合う場」を設定し、自他のよさを見つけて伝え合ったり認め励まし合ったりして、達成感を味わう場にしていきたい。

本校の研究副主題「主体的に学び、共に高め合う書写学習」を実現するための指導の手立てとして、児童が文字を書くことに対する興味・関心を持続できるようにするため、毎時間前時とのつながりをもたせながら課題に取り組めるようにする。また、「高める」「確かめる」の場面での対話的な活動を通して、自己の伸びを実感させると共に、児童が互いに認め合い、高め合う機会を多くつくることで、自分の書く文字に自信をもち、日常生活や他教科の学習においても筆圧や字形を意識し、意欲的に文字を書こうとする姿勢を育みたい。

3 単元の目標

- (1) 平仮名の筆使いを理解して、字形を整えて書くことができる。
- (2) めあてをもち、自分や友達のよさに気づき伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

ア	知識・技能	平仮名の筆使いを理解し、字形を整えて書いている。
イ	主体的に学習に取り組み態度	①自分のめあてをもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ②自分や友達のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（3時間）

第一次 平仮名の筆使いに気を付けて書こう 2時間（本時2／2）


第二次 硬筆で字形を整えて書こう 1時間

6 本時の学習

(1) 目 標

- 平仮名の筆使いに気を付けて書くことができる。
- 自分や友達によさに気づき、伝え合おうとしている。

(2) 展 開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	1 既習の点画を確認するとともに、 ・本時の自分のめあてを決定できるように支援する。	
	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  </div> <div> ひらがなの筆使いに気を付けて書こう。 ・「つ」と「り」の始筆 ・「つ」と「り」のはらい </div> </div>		
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。 ・練習方法を選び、練習する。 ・アドバイスし合ったことを参考に練習する。	2 自分のめあての達成に向けて練習ができるように支援する。 ・どの練習方法が効果的かを明確にする。 ・練習用紙 ・分解文字 ・水書用紙 ・動画	ア 平仮名の筆使いを意識して書いている。 (観察)
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・自己評価や相互評価をする。	3 本時の自分のめあてを再度確認してから、まとめ書きをする。 ・自己評価と相互評価の着眼点を明確にし、めあてに沿った評価ができるようにする。	イ② 自分や友達によさを見つけ、伝えようとしている。 (発言・観察)
生かす	4 学習したことを生かす。	4 本時の振り返りをし、次時の学習に生かす。 ・振り返りで明らかになった自分のめあてを次時につなげる。	

(3) 評価及び指導

①「十分満足できる」と判断される状況

ア	平仮名の筆使いについてよく理解して書いている。
イ②	自分や友達によさに気づき、進んで伝えようとしている。

②「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）

ア	めあてに合った練習用紙を選ぶことができるように助言したり、穂先の向きや通り道等の筆使いを共に振り返ったりする。
イ②	自分や友達めあてを確認するように声をかけ、よさを見つけられるように支援する。